

令和6年度 自己評価表

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価（自己評価の結果）		改善策
				令和5年度	令和6年度	中間	最終	
【確かな学力】 児童の学び方の変革を促し、学力・学習意欲の向上を図る。 自分で学習する力 自分で学習する力(自由進度学習の充実と継続)	・児童が主体的に学習する態度を育てる。 ・児童の理解程度や興味関心に応じた学習を展開する。 ・児童一人一人の学びの段階に応じた学力を身に付けさせる。	○個別最適な学びの実現(≒自己調整力をつける)のため、学習計画表をもとに自立学習、自由進度学習に取り組む。児童の選択と決定を大事にし、主体的に学習に取り組む児童を育てる。 ○ICTを積極的に活用するとともに、個々の理解や進度に合わせてAIドリル(Qubena)やタブレットドリル等を効果的に取り入れ、自主学習を深化させる。 ○単元テスト毎に、目標点数を設定する。また、実際の点数を比較し自分の学びについて振り返る。 ○読書に親しませ、読書量を増やす。(読書環境の充実)	○児童の学習満足度<アンケート> ①学習すべきことを考えて、自分から進んで学習に取り組んだ。 ②学習時間を考えながら、自分のペースで学習しようとした。 ③学習内容がわかるように、色んな学び方を試してみた。 ○学期末テストで、自分が設定した目標点数を上回る児童の割合。	○学習満足度 91.9% ○国語・算数の単元末テストの通過率が平均 80 点以上の児童の割合 ・国語 80% ・算数 85% ○市教委実施の学力調査における各教科の目標値を超える児童の割合 ・国語 60% ・算数 67% ・理科 77%	○児童の学習満足度 43 名中 35 名以上の肯定的回答 ○目標点数を上回る児童の人数 国語 35 名以上 算数 35 名以上	○児童の学習満足度<アンケート> ①42 名中 39 名 ②42 名中 38 名 ③42 名中 34 名 ○学期末テストで、自分が設定した目標点数を上回る児童の人数。 国語 38 名中 20 名 算数 39 名中 20 名		児童の学習満足度について、進んで学習に取り組んだり、自分のペースで取り組んだりする児童が多くなっている。一方で、色んな学び方を試してみようとしている児童は、比較的少ない。教師が学び方を提示したり、自分なりの学び方をしている児童への肯定的な声かけを行ったりすることで、学び方を広げていく。また、児童自身も学び方を振り返ることができるようにする。 学期末テストでは、児童自身が学習の定着度合いを把握し、高すぎず低すぎずの適切な目標点数を設定していた。1問の配点が大きく、ケアレスミス等で目標達成できなくなってしまうため、日頃から丁寧に見直しするよう声かけをする。
【豊かな心】 児童の豊かな心と協働を基軸とした人間関係を育成する。 協働する力(生活科・総合的な学習の時間の充実)	・協働的な体験活動を推進し、協働する力を育成する。	○海をテーマとした生活科や3年生以上の異年齢集団の総合的な学習の時間を充実させる。 ○生活科と総合的な学習の時間に地域とのつながりを意識した探究的な課題を設定し、体験的な異年齢合同学習を行う。 ○縦割りグループによる活動、集団遊び、小中合同の活動等を積極的に設定する。 ○活動後に振り返りと肯定的相互評価活動を実施する。	<児童アンケート> ・自分のよさがわかる児童の割合 ・友達のよさがわかる児童の割合 ・認められていると感じた児童の割合 ・異学年の友達と協力して取り組むことができたと感じた児童の割合	・自分の良さがわかる ・79.6 (+1.6) ・友達の良さがわかる ・97.9 (+3.9) ・自分が認められている ・81.6 (-3.4) ・協力して取組めた ・91.8 (+16.8) ※目標値比	・自分の良さがわかる ・80% ・友達の良さがわかる ・90% ・自分が認められている ・85% ・協力して取組めた ・80%	・自分の良さがわかる ・83.3% ・友達の良さがわかる ・97.6% ・自分が認められている ・85.7% ・協力して取組めた ・97.6%		自分や友達の良さがわかり、自分が認められていると感じられている児童が増えている。このことから、自己肯定感が育ちつつあることがわかる。また、友達や他学年の児童ともさまざまな活動で協力し合っている。 2学期はさらに、学習発表会や持久走大会等の行事で、児童が良さを生かし、関わり合う場面が多くあるので、振り返りを大切に、児童の良さを価値付けていきたい。
【健やかな体】 生活習慣の基礎を培うとともに、児童の体力を向上させる。 自立した生活を目指した取組の充実(生徒指導の充実)	・基本的生活習慣を確立させる。 ・体力・運動能力を向上させる。	○基本的生活習慣定着のための保健指導を行うとともに、保護者啓発に取り組む。 ○児童が意欲的に活動するように、マラソンや長縄など、イベント的な活動を仕組む。 ○授業前に体力の課題に即した、サーキットトレーニングを取り入れる。 ○体力づくりコーナーを設置する。	○基本的生活習慣の定着<児童アンケート> ・7時までに起床 ・朝食に野菜を食べる ・メディアを2時間以内 ・9時から10時までに就寝 ○体力・運動能力の向上 ・「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」を全国平均以上にする。 ・5年生児童に体力テスト2回目を実施し、その結果が1回目より上回る児童を75%以上にする	・起床 64.6% ・朝食 75% ・メディア 60.5% ・就寝 77.1% ※R4年度との比較 □握力 90% □上体起こし 63% □長座体前屈 80% □ソフトボール投げ 56%	・起床 80% ・朝食 80% ・メディア 70% ・就寝 80% ・反復横跳び ・20mシャトルラン ・50m走 ・立ち幅跳び が全国平均を上回る 100% ・5年生2回目の体力テスト1回目より上回る児童の割合 75%	・起床 92.9% ・朝食 71.4% ・メディア 57.1% ・就寝 78.6% R 5 全国平均を上回った項目 ・反復横跳び ・立ち幅跳び R 5 全国平均を下回った項目 ・50m走 ・シャトルラン		起床時刻は9割の児童が目標値を上回った。 ・メディアとの付き合い方に課題がある。全校でネットの使い方についての指導を実施するとともに、二学期のがんばりウィークでノーメディアの取組も実施する。 ・朝食に野菜を取り入れることの大切さについて、保健指導を実施したり、保険便り等で家庭への啓発を図ったりする。 ・体力・運動能力では、50mとシャトルランが全国平均を下回った。今後は、陸上記録会の練習や持久走大会に向けての練習に取り組むことで、力を付けていきたい。
【信頼される学校】 保護者・地域からの信頼に応える。 児童・保護者への誠実な対応と積極的な情報発信	・保護者や地域が協働しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。 ・働き方改革をすすめる。	○地域学校協働活動への取り組みを開始する。 ○学習の成果を保護者・地域に発信する。 ○児童・保護者に対して丁寧な対応を行う。事後、報告・連絡・相談・確認を確実に行う。 ○学校だより、学級通信、保健だより、classroom、HP等により、学校や児童の活動の様子を分かりやすく発信する。	○学校満足度に関する肯定的評価の割合(保護者アンケート) ○学校は、学校や児童の様子を分かりやすく発信している。(保護者アンケート)(学校だより、保健だより、学級通信、HP等) ○働き方改革に対する満足度が80パーセント以上(職員アンケート)	学校満足度 保護者 96.0% (よく 56.0%) 職員 100% (よく 36.4%) (やや 63.6%)	学校満足度(保護者) 43人中38人以上 情報発信満足度 43人中38人以上 職員10名中8人以上	学校満足度(保護者) 42人中40人 情報発信満足度 42人中40人 職員10名中10人		・児童や保護者の声に耳を傾け、迅速に対応することで安心感をもってもらうとともに、学校の教育活動の意味や意図を明確にして伝えることで、保護者の理解を得る。 ・SNS、HP等を活用しながら、様々な角度から学校の取組がタイムリーに伝わるよう、随時発信していく。 ・教職員とのコミュニケーションを大切に、業務改善につながる取組を取り上げたり、提案したりしながら、三高小学校の実情に合わせた働き方改革を進めていく。

